

第611回

九州朝日放送番組審議会議事録

—— 平成31年3月度 ——

◇ 議題

<テレビ番組>

テレメンタリー2018「“中洲”の夜間保育園」

<放送日時>

平成30年12月23日(日)25時15分～25時45分

◇ その他

2019. 3. 18

九州朝日放送株式会社

第611回 番組審議会議事録

1. 開催年月日 平成31年3月18日(月)午後3時30分～4時55分

2. 開催場所 九州朝日放送 本社役員会議室

3. 委員の出席

委員総数 8名

出席委員数 7名

委員長	野田 幸之輔
副委員長	池田 勝
委員	安恒 万記
委員	戸田 康一郎
委員	守田 有理子
委員	赤木 由美
委員	鶴 利絵

放送事業者側出席者名

代表取締役社長	和 氣 靖
取締役	笹 栗 哲 朗
取締役 総合編成局長	森 君 夫
ラジオ局長	穴 井 建 一
報道局長	臼 井 賢一郎
コンテンツ局制作部 プロデューサー	野 村 友 弘
コンテンツ局制作部 ディレクター	姫 野 詠 美
番組審議会事務局長兼視聴者・広報室長	井 上 千 秋
番組審議会事務局 (視聴者・広報室)	松 永 俊 郎

4. 議 題

- (1) テレビ番組 テレメンタリー2018「“中洲”の夜間保育園」
＜放送日時＞平成30年12月23日(日)25時15分～25時45分
- (2) 平成31年3月・4月 ラジオ・テレビ番組編成状況の報告
- (3) 平成31年2月 視聴者・聴取者応答状況の報告
- (4) その他

5. 議事の概要

◎委員の意見（概要）

委員からは、

- 夜間保育園がテーマとなれば、ともすると「預けられる子どもがかわいそう」という感情を持つ方向にもなりがちだが、そうではなく課題から目をそらさず、もっと社会全体の問題として取り組むべきだと問題提起を促す内容になっていた。無認可の夜間保育所に福岡市だけでも600人を超える子どもが預けられている現状に対し、夜間保育園の新設に動かない行政の怠慢だと思った。
- 保育園不足による待機児童の問題は知っていたが、育児休職後に仕事を続けるための環境整備の点から語られることが多い。しかし、番組が夜間保育に焦点を当てたことで、昼だけではなく、夜の育児にも一定の配慮が必要なことに気づかせてくれた。「一億総活躍社会」が叫ばれる中で、本当に安心して働くことができる社会なのかを問い質す内容だった。
- 待機児童問題を置き去りにしたまま、今年の10月に始まろうとしている幼児教育・保育の無償化を前にとっても考えさせられるよい番組だった。社会のニーズが多様化し、働き方も多様化する中で、子育て支援の在り方を改めて考えさせられた。
- 子どもを取り巻く環境の厳しさを改めて思い知らされた。また、未婚で妊娠したことを理由に会社を解雇された女性の姿からは、結婚や出産の自由にまだ社会がついてきていないことを示していると感じた。
- 認可外施設の実態や保育料の違いにも触れられた本作品は、制度上の不備に対する制作者の問題意識がはっきり読み取れて良かった。今の社会が夜に働く人にも支えられていることを考えると、現状で良いのかを問う番組だった。
- 認可外のベビーホテルの保育料は、認可保育園「どろんこ保育園」と比べて割高で、設備や保育士1人当たりの担当園児の数でも厳しい状況にあるとのこと。「補助が欲しい」という保育士の言葉が悲鳴のようにも聞こえた。もう少し行政の支援が必要だとしみじみと感じた。

などの評価を頂きました。

一方、気になる点や望むこととして、

- テレメンタリーらしく淡々と事実を見せていたが、夜間保育園のニーズは明らかなのになぜ行政が新たな保育園を作らないのかなど、もう少し鋭く問題に切り込んで欲しかった。
- 「中洲＝夜」というイメージからだと思うが、タイトルの「中洲」に違和感を覚えた。夫婦で店を営んだり、昼の仕事でも帰宅が遅くなる人が子どもを預けている場合もあるのに、タイトルだけを見て中洲の繁華街で夜に働くシングルマザーが子どもを預ける保育園を想像した。
- たった一つの認可夜間保育園は詳しく紹介される一方、たくさんある認可外の夜間保育所については紹介が少なく、問題の捉え方がやや表面的になっている印象を受けた。どうして認可外の夜間保育所がたくさん存在するのか、あるいは認可外保育所に預けざるを得ない人が大勢いるのかについても詳しい説明が欲しかった。
- 共働きの家庭もフォーカスして欲しかった。そうすることで、夫婦で協力して育児をする社会や企業の仕組みづくりにつながるのではないかと思った。
- 視聴者がよりリアリティーを持って課題を考えるために、昼と夜の待機児童数や認可保育園の基準などの数値的な情報もあっても良かったのではないか。十分な情報が与えられないまま番組が終わったという消化不良感を感じた。

などの批評や提言を頂きました。

これらに対して、担当者からは、

- 新たな保育園を作らないという行政に対し、「もう少し鋭く問題に切り込んで欲しかった」というご指摘について、夜間保育園の必要性を訴えようと制作した立場から、一つのエールとして嬉しく思った。
- 「認可外の夜間保育所について紹介が少なかった」という点について、より厳しい環境にあるベビーホテルをもっと取材するべきというご指摘は当然なのだが、夜間保育園の必要性を知ってもらいたいとの思いで制作に当たった。無認可の夜間保育所は福岡市内に37カ所あるが、全てに電話をして1カ所しか取材を受けてもらえなかった。
- 夜に子どもを預けることができる夜間保育園の存在が、一方で夜に働くことができる環境を整備してしまうのではないかと行政の危惧もある。ただし、行政がどろんこ保育園さえカバーしきれない時間帯に働く人の子どもにまで目を配れていないところが問題ではないかと考えている。

などの説明をしました。